

■福岡市指定文化財・明法寺櫛文書(みょうほうじ さかきもんじょ)は、福岡市早良区四箇(しか)の浄土真宗本願寺派明法寺住職・櫛氏が代々伝えてきた文書群です。鎌倉時代から戦国時代、正応2年(1289)から慶長8年(1603)までの文書45点が卷子5巻に仕立てられています。

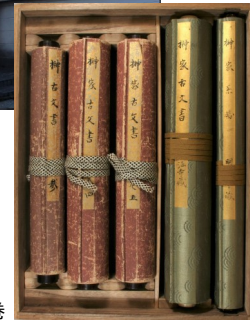
■令和6年は、文永11年(1274)の蒙古襲来から750年にあたりました。福岡市内には元寇防塁跡があり、歴史的大事件・蒙古襲来の痕跡を間近に見ることができます。これにちなみ、元寇防塁の修理についての文書・少式貞経執行状(明法寺櫛文書6)【本誌表紙に写真掲載】を紹介するパネル展示を文書資料室で行いました。



遍照山 明法寺 (山門と鐘楼)



ホームページ
「古文書資料紹介」
もご覧ください



明法寺櫛文書 全5巻

■蒙古襲来を受けた鎌倉幕府は、博多湾沿岸に石積みの防壁「石築地(いしつじ)」を築くよう九州の御家人たちへ命じます。正和5年(1316)に少式貞経が櫛定禅に出した執行状は、「博多前浜石築地」の破損について、先の御教書で命じられるとおり早く修理等を行えというものです。

■歴史資料としての明法寺櫛文書の大切さは、江戸時代にはすでに学者たちに知られていました。福岡藩儒・貝原益軒らが編纂した地誌「筑前国続風土記」は、元寇防塁に関する記述中に少式貞経執行状を引用しています。

さて博多の海辺より東は箱崎、多々羅瀉、西は鳥飼の海辺、姪浜、生ノ松原、今津に至る迄石を築て、海つらは急に一丈より高く、こなたはのへにして、馬に騎ながら馳のほり、賊船を見おろして、さけ矢に射るやうにこしらへたり、此石築地の事など、鎌倉より催促せし文書、当国如々に今猶残れり、(中略)此後いよいよ博多津の警固要害の営作おこたらず、此時博多警衛催促の文書等、国中処々にあり、一書に云、

筑前国役所博多前浜石築地破損之事、今年正月廿五日、御教書案如此、早任被仰下候旨、向役所云破損云加作、可被了終其功一候、仍執達如件、

少式筑後守妙恵
貞経有判

正和五年二月十二日
櫛定禅地頭殿

是花園院の御時、鎌倉將軍御教書の旨を以て、博多前浜石築地修補をなすへきよし下知の状也、

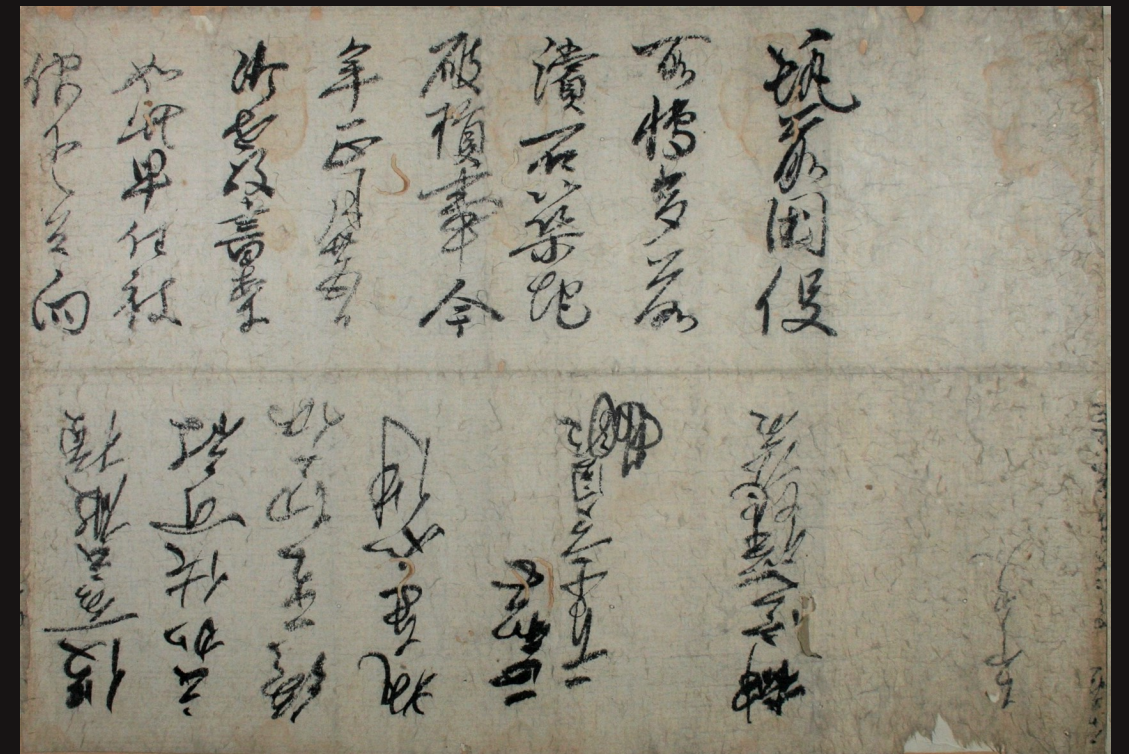
「筑前国続風土記」巻之二十四 古城古戦場一 那珂郡 博多古壘(部分)

蒙古襲来絵詞(模本)(九州大学附属図書館所蔵)部分



■鎌倉時代の石築地は、「蒙古襲来絵詞」に見ることができます。石積みの壁の上に肥後国の御家人菊池氏らが居並び、その前を馬に乗った竹崎季長(たけざき すえなが)らの一行が進んでいるこの場面。現在の福岡市西区生の松原(いきのまつばら)の情景を描くと考えられています。

■大正時代に始まった発掘調査に際し、医学者で考古学者の中山平次郎は、掘り出された石積みを「元寇防塁」と名付けました。今日、博多湾沿岸の今津、今宿、生の松原、姪浜、西新、箱崎などに点在する防塁遺構は、国指定史跡「元寇防塁」として保存、整備されています。(三角)



元寇防塁跡(生の松原)(2009) 写真提供：福岡市

しょうにさだつねしぎょうじょう みょうほうじさかきもんじょ
少式貞経執行状 (明法寺櫛文書6)

明法寺所蔵／市指定文化財／総合図書館寄託

もくじ

令和6年度新収蔵資料

入江寿紀収集資料(一) ……2

三宅剛照資料(長春軒文庫)(二) ……3

収蔵資料の詳細目録

東長寺文書(五) ……3

インフォメーション ……4

パネル展示「明法寺櫛文書の世界
－元寇防塁の修理についての文書－」

古文書だより 第4号 発行日 令和7年(2025)3月31日

編集・発行 福岡市総合図書館 文学・映像課 古文書係

〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3丁目7番1号

TEL 092-852-0634 FAX 092-852-0609 URL <https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>

本誌に掲載の画像は無断転載を禁じます。ご利用方法はこちら

ホームページ「文書資料室」



編集後記 とうとう第4号をお届けできました。お楽しみいただけますと幸いです。(三角)

「古文書だより」の最新号やバックナンバーはこちら

ホームページ「古文書だより」



三宅剛照資料(長春軒文庫)(二)

みやけよしてゐる

ちやうしゅんけん

長春軒文庫は、三宅剛照氏の父である三宅安太郎氏(みやけ やすたろう、1902～1982)の収集資料です。博多に生まれ育った安太郎氏は酒壺洞(しゅこどう)と号し、仙厓(せんがい)研究の第一人者、自由律俳句誌『層雲』同人の俳人、県や市の文化財関係委員などとして幅広く活躍し、郷土史研究、地域文化の振興に力を注ぎました。

安太郎氏の一大集書群・長春軒文庫は、当館の前身である福岡市民図書館に寄贈されました。図書部、史料部、書・画部、仙厓資料部などから成るその全容は、同館編集・発行『三宅長春軒文庫目録』(1986年)によって知られます。



にしきえ かわかみえんげきにしんせんそう A73-1～3 錦絵 川上演劇日清戦争

川上音二郎一座の演劇「日清戦争」の一場面を描いたもの。博多に生まれ、日本の演劇史に大きな足跡を残した川上音二郎(かわかみ おとじろう、1864～1911)は、今なお博多のまちで親しまれる存在です。墓がある承天寺(じょうてんじ、福岡市博多区)では毎年命日に川上音二郎忌が行われ、現在の劇場・博多座(同区)の近くには「オッパケペー節」を唄う音二郎をかたどった銅像があります。



はかたねんだいき A80-1～-5 博多年代記

江戸時代、主に享保から宝暦期(1716～1764)の博多の出来事を年代順に記述したものと5点。博多の年行司等をつとめた鑄物師・磯野五兵衛が作成したと考えられます。

当館では先に、史料部と剛照氏から新たに寄贈された資料とを合わせた三宅剛照資料(長春軒文庫)1290点(『平成21年度古文書資料目録15』所収)を、郷土・特別資料室でマイクロフィルム等の紙焼本によって閲覧提供しています。

令和6年度は、書・画部と新たな寄贈資料とを合わせた三宅剛照資料(長春軒文庫)(二)のうち、浮世絵・錦絵43点と「博多年代記」5点の公開を始めました。これらは郷土・特別資料室横の図書資料室で、デジタル画像によってご覧いただけます。

「博多年代記」については、秀村選三「博多年代記」小考(『新修福岡市史のしおり資料編近世1 領主と藩政』福岡市博物館市史編さん室、2010年)、近世博多年代記研究会校註・解題、校註代表秀村選三『磯野五兵衛覚書 近世博多年代記 地域史資料叢書 第三輯』(近世博多年代記研究会、2013年)、中村順子編『磯野五兵衛覚書』近世博多年代記『年表私案』(合同会社花乱社、2013年)などの先行研究があります。

令和6年度 新収蔵資料

〈寄贈資料〉

いりえひさのり

入江寿紀収集資料(一)

入江寿紀氏(1921～1994)は、海軍兵学校(第72期)を昭和18年(1943)に卒業し、戦後、西日本鉄道株式会社(本社・福岡市)に入社しました。同社調査室勤務の時に、社内誌「西鉄社報」に電気軌道についての執筆を始めます。同時期に福岡地方史談話会(現、福岡地方史研究会)にも参加。同会顧問の橋詰武生氏、九州大学名誉教授の山田龍雄氏・秀村選三氏らと出会い、研究を深化させていきました。その研究テーマは、自転車、福岡電気軌道、筑前琵琶、エネルギー、養蜂、大熊浅次郎等と幅広く、多くの論考を発表しました。また、研究を通して多種多様な資料を蒐集し、その結果として本資料群が形成されました。

入江氏は生前から、資料群を研究機関や研究者に公開していました。そのため、資料の存在は研究者の間ではよく知られていました。没後、県史編纂事業を担っていた福岡県地域史研究所(平成23年3月閉鎖)の調査により、その全容が明らかになり、資料群は、テーマ別になった様々な記事のスクラップブック、明治・大正の文書や記録類、絵葉書類を貼付したアルバム等で構成され、貴重なものであることが改めて確認されました。

収蔵資料の詳細目録

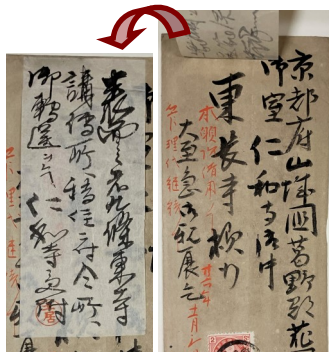
〈マイクロフィルム収集資料〉

とうちようじもんじょ

東長寺文書(五)

真言宗別格本山東長寺(福岡市博多区御供所町)が所蔵する古文書群を東長寺文書といいます。当館はこれをマイクロフィルムによって収集、公開し、現在も調査を継続中です。令和6年度は東長寺文書(五)に522点の詳細目録を加え、東長寺文書は総計7千7百点余を数えます。

このたびの詳細目録資料には、明治時代の東長寺45世住持・摩尼宝洲(まにほうしゅう)宛の書簡が多数あります。宝洲は明治14年(1881)に東長寺住持となり、東京・根生院内の真言宗法務出張所、京都・仁和寺、京都・東寺内の真言宗法務所および事相講伝所等でも宗務に就き、多方面で重んじられました。左のように、書簡の宛先から宝洲が身を置いた場所がわかります。本文とあわせて、封筒もだいたいな情報源となります。



(付箋)

摩尼宝洲は仁和寺から東寺事相講伝所へ移ったため、この郵便は同所へ転送されたいと、仁和寺の受附が記しています。

(封筒表)

「仁和寺御中 東長寺様行」などと記す上に付箋を貼っています。

A3127-7-5 書簡(明治26年10月27日付)



A1-62→

A2-137-3-4↓

↑A2-57

←A1-109-4-5

福岡市総合図書館は平成8年(1996)6月に開館し、間もなく30年目を迎えます。なかでも、図書資料部門は福岡市の文書館(アーカイブズ)として、地域の歴史に関する古文書や歴史的公文書等を収集、整理、保存して次世代へ継承するとともに、調査研究を進めて、利用者のみなさまへ資料や情報を提供しています。

古文書資料は認証アーキビスト3名が担当し、令和6年度末までに約8万7千点を収蔵しています。ご利用方法など、詳しくは当館ホームページの「文書資料室」をご覧ください。

「収蔵品データベース」

「文書資料室」

保存と活用の両立にご協力をお願いします

古文書資料は、何十年何百年もの時を経て現代まで伝えられてきました。紙自体の劣化や虫損等によって、取り扱いが難しい資料も多くあります。そのため、資料の現物は温度と湿度を一定に保った収蔵庫に保存し、資料の複製物(マイクロフィルムやデジタル画像)をみなさまのご利用に提供しています。

令和6年度データベース公開資料

ホームページの「収蔵品データベース」で新たに目録検索できるようになった古文書資料です。資料は原則として、当館2階の文書資料室で、マイクロフィルム等によって閲覧、複写できます。

■令和6年度新収蔵資料〈寄贈資料〉

入江寿紀収集資料(一) 472点
三宅剛照資料(長春軒文庫)(二) 48点
〈マイクロフィルム収集資料〉
益富資料 142点

■収蔵資料の詳細目録

〈マイクロフィルム収集資料〉
東長寺文書(五) 522点